「ナツノネ」

振り向いたあと呟いた 君の言葉を
思い出す あの夏の日を

あぁ過ぎてく毎日を 呆然と眺め
なんだか不安に なったりしてさ
あぁ寝ぼけ眼で 空を見上げる
なんでもない日常

青く広がる 空の下で
出会った 君は楽しそうで

乾いた夏の音が響き渡れば
伝えた言葉もすぐにかき消される
振り向いた後呟いた君の言葉を
掴んで離さないように

あぁ無邪気な笑顔で 世界が変わる
なんとも単純で 可笑しくもなるな
あぁふとした時に 君の瞳が
寂しそうに揺れてた

あと何度 君に会えるかな
願った　消えそうな飛行機雲

描いた夏夢が色をつければ
嘲笑う様にすぐにかき消される
終わらないでと追いかけた君の背中が
霞んで見えなくなっても

どんな痛みも かけがえのないもの
胸に残った 忘れられない
君の目に 映る何かが光って見えた
それがなんだか綺麗に見えたんだ

乾いた夏の音が響き渡れば
伝えた言葉も　空に消える
振り向いた後君は何て言ったんだろうな
探したあの飛行船を

揺らいだ君の目がこびりついてさ
過ぎ去った後で空に叫んだけど
振り向いた後呟いた君の言葉を
掴んで離さない様に
忘れない様に　Ah…